

2022年度 第1四半期 決算説明会

2022年8月5日

ブラザー工業株式会社

常務執行役員財務担当 伊藤 敏宏

当資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来の業績に関する見通しであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度等に関するさまざまなリスクや不確実要素により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

2022年度 第1四半期（4月-6月）実績

為替のプラス影響に加え、主にP&S事業が堅調に推移し、増収
事業セグメント利益は、主にP&S事業における価格対応の効果があったものの、
部材・物流コストの高騰に加え、販管費が増加したことにより、減益

◆ 売上収益 1,997億円/+14.8%（前年同期比）

- ✓ P&S事業は、為替のプラス影響に加え、製品本体及び消耗品の堅調な推移により大幅増収
- ✓ マシナリー事業は、工業用ミシンのアパレル向け設備投資需要は堅調に推移したものの、産業機器が部材の供給不足による生産制約の影響を受け、事業全体で減収

◆ 事業セグメント利益 248億円/ -5.3%（前年同期比）

2022年度 通期業績予想

為替前提、セグメント内訳も含め、前回予想（2022年5月11日公表）から変更なし

2022年度 第1四半期決算

為替のプラス影響に加え、主にP&S事業が堅調に推移し、増収となりました。

売上収益

前年同期比 14.8%増の **1,997**億円、第1四半期の決算としては、過去最高となりました。

P&S事業は、インクジェット複合機、レーザー複合機・プリンターともに供給制約が緩和されたこととともない、製品本体の販売が好調に推移しました。消耗品については、値上げ前の駆け込み需要もあり、堅調に推移しました。これらに、為替のプラス影響も加わり、増収となりました。

マシナリー事業は、工業用ミシンのアパレル向け設備投資需要は堅調に推移したものの、産業機器が部材の供給不足による生産制約の影響を受け、事業全体で減収となりました。

事業セグメント利益

前年同期比 5.3%減の **248**億円となりました。

主にP&S事業における価格対応の効果があったものの、部材・物流コストの高騰に加え、販管費が増加したことなどにより減益となりました。

2022年度 通期業績予想

為替の前提、セグメント内訳も含めて、前回予想（2022年5月11日公表）から変更はありません。

2022年度 第1四半期業績

為替のプラス影響に加え、主にP&S事業が堅調に推移し、増収となる
事業セグメント利益は、主にP&S事業における価格対応の効果があったものの、
部材・物流コストの高騰に加え、販管費が増加したことにより、減益となる

単位：億円

	21Q1	22Q1	増減	増減率 ()は為替影響 除く増減率
売上収益	1,740	1,997	257	14.8% (4.8%)
事業セグメント利益	262	248	▲14	-5.3%
事業セグメント利益率	15.0%	12.4%		
その他の収益・費用	3	2	▲1	
営業利益	265	250	▲14	-5.5%
営業利益率	15.2%	12.5%		
税引前利益	267	253	▲14	-5.4%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	186	174	▲12	-6.6%
USD	110.00	129.04	19.04	
EUR	131.78	138.24	6.46	

© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

4

それでは、業績説明です。

2022年度 第1四半期の

売上収益は、前年同期比 257 億円増となる **1,997** 億円、第1四半期としては過去最高となりました。

事業セグメント利益は、14 億円減の **248** 億円

営業利益は、14 億円減の **250** 億円となりました。

親会社四半期利益は、12 億円減の **174** 億円 となりました。

2022年度第1四半期 事業セグメント別実績

単位：億円

	売上収益			事業セグメント利益			営業利益		
	21Q1	22Q1	増減	21Q1	22Q1	増減	21Q1	22Q1	増減
P&S	991	1,218	228	164	179	15	163	169	6
マシナリー	254	234	▲19	47	21	▲26	46	24	▲22
ドミノ	207	237	30	21	16	▲4	21	20	▲1
ニッセイ	50	60	10	5	6	1	5	7	1
P&H	141	142	1	31	20	▲11	31	20	▲11
N&C	70	84	15	▲8	3	11	▲3	7	10
その他	28	22	▲6	2	3	1	2	3	1
合計	1,740	1,997	257	262	248	▲14	265	250	▲14

※セグメント間取引消去額は含めておりません。

© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

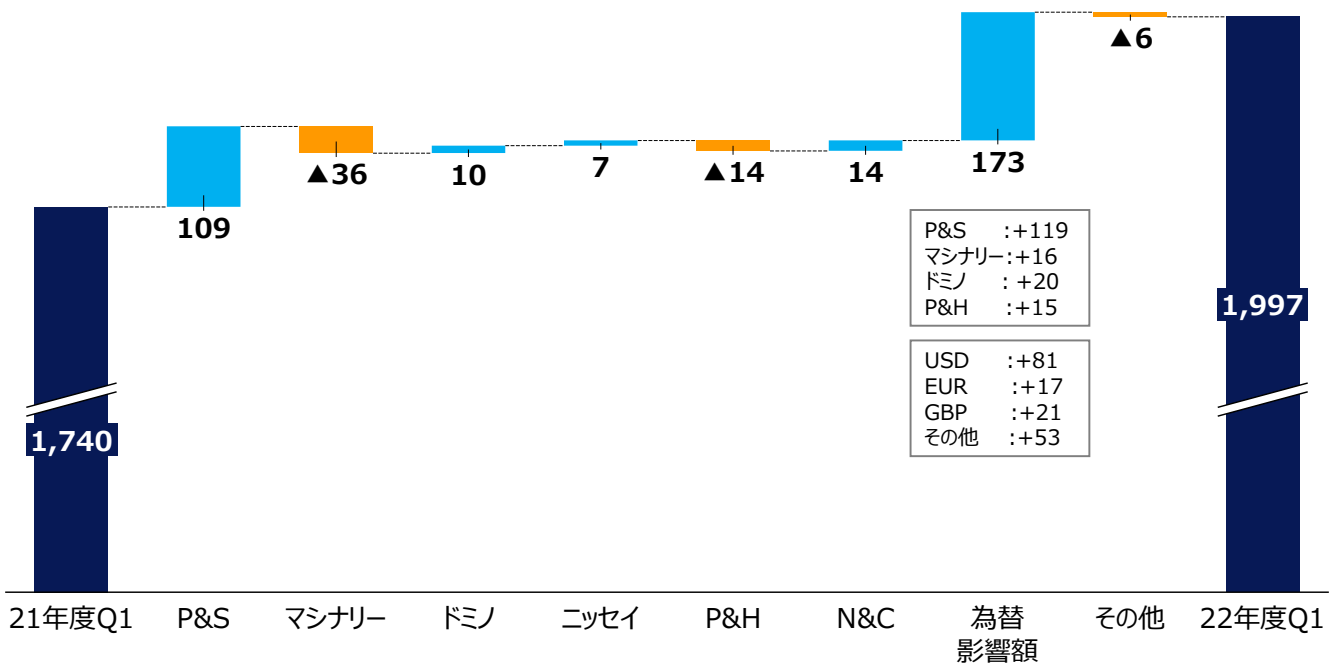
5

事業セグメントごとの業績一覧です。

なお、中期戦略「CS B2024」（2022年度～2024年度）に基づき、2022年度より開示セグメントを変更しました。2021年度の数値は、現在のセグメントに組み替えたものを使用しております。以降のページも同様です。

為替のプラス影響に加え、主にP&S事業が堅調に推移したことにより増収となる

単位：億円



※増減額は為替影響を除いた実質ベース

2022年度 第1四半期の売上収益の増減要因です。

・P&S

供給制約が緩和されたことにもない、製品本体の販売が好調に推移したことに加え、消耗品は値上げ前の駆け込み需要があったことにより増収となりました。

・マシナリー

工業用シンのアパレル向け設備投資需要は堅調に推移したものの、産業機器が部材の供給不足による生産制約の影響を受け、減収となりました。

・ドミノ

C&M・DPともに、消耗品が堅調に推移し、増収となりました。

・ニッセイ

工場における自動化ニーズの高まりにより、減速機・歯車ともに堅調に推移し、増収となりました。

・P&H

各地域で巣ごもり需要は一巡し、減収となりました。

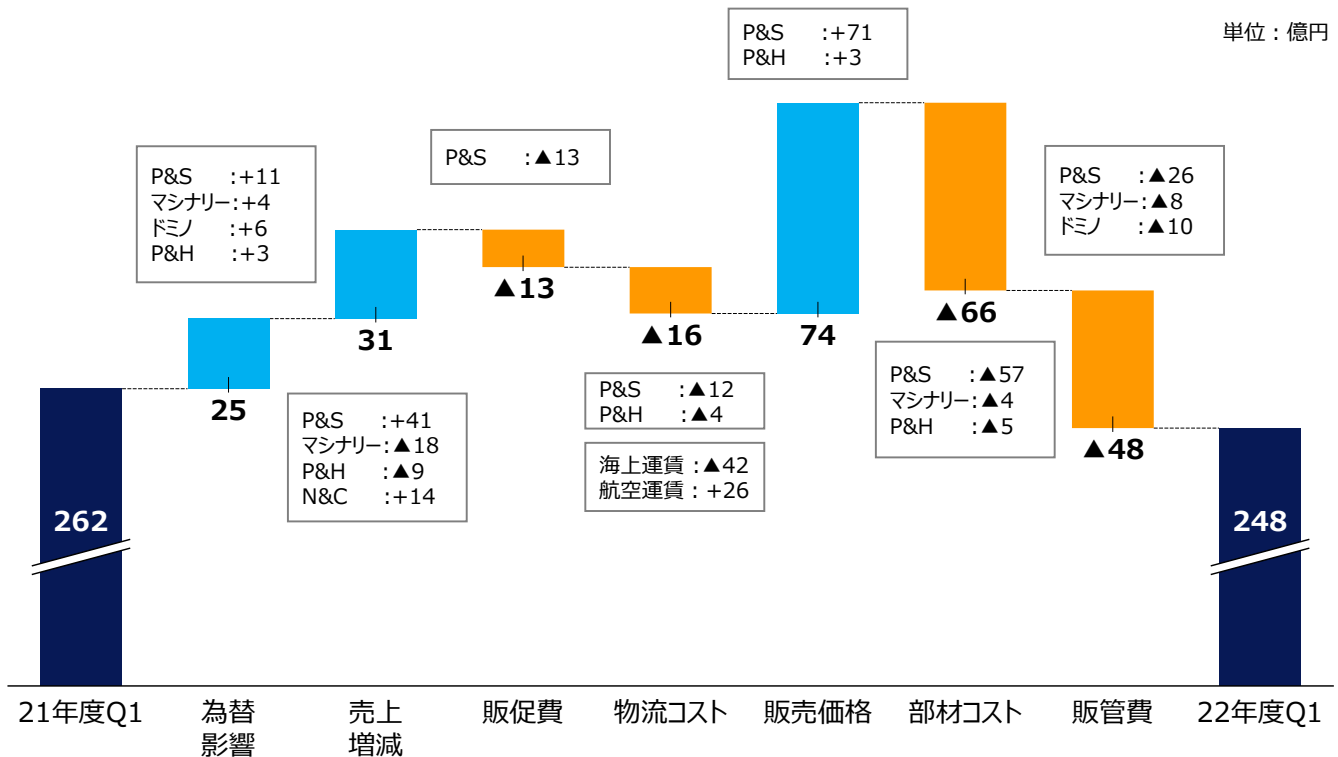
・N&C

新型コロナウイルス感染症に対する行動規制の緩和にともない、客足は回復し、増収となりました。

為替が円安に推移したことによるプラス影響 173 億円が加わり、
全社では 257 億円増の **1,997 億円**となりました。

主にP&S事業における価格対応の効果や売上増、為替のプラス効果があったものの
部材・物流コストの高騰に加え販管費の増加により、減益となる

単位：億円



© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

7

事業セグメント利益の増減要因です。主な要素についてコメントします。

・為替影響

ほぼすべての事業で為替のプラス影響がありました。

・売上増減

主にP&S事業、N&C事業の売上増が寄与しました。

・物流コスト

主にP&S事業で海上運賃が増加しました。

・販売価格

主にP&S事業によるものです。価格対応の効果により、平均単価があがりました。

・部材コスト

主にP&S事業での電子部品や樹脂材料などの部材のコストアップによるものです。

・販管費増減

人件費の増加などにより、販管費が増加しました。

これらにより、事業セグメント利益は、前年同期比 14 億円減の **248 億円**となりました。

2022年度 通期業績予想

為替前提、セグメント内訳も含め、前回予想から変更なし

単位：億円

	21年度 実績	22年度 予想	増減	増減率 ()は為替影響 除く増減率
売上収益	7,109	7,750	641	9.0% (4.5%)
事業セグメント利益	846	730	▲116	-13.7%
事業セグメント利益率	11.9%	9.4%		
その他の収益・費用	9	0	▲9	
営業利益	855	730	▲125	-14.6%
営業利益率	12.0%	9.4%		
税引前利益	864	730	▲134	-15.5%
親会社の所有者に帰属する当期利益	610	510	▲100	-16.4%
USD	112.86	122.00	9.14	
EUR	131.01	133.00	1.99	

2022年度の通期見通しについては、
為替の前提、セグメント内訳も含めて、2022年5月11日に公表した前回予想から変更はありません。

[ご参考]前年度比
売上収益は、641 億円増の **7,750** 億円

利益については、
事業セグメント利益は、116 億円減の **730** 億円
営業利益は、125 億円減の **730** 億円
親会社当期利益は、100 億円減の **510** 億円 を見込んでいます。

2022年度通期 事業セグメント別予想（前年度比）

単位：億円

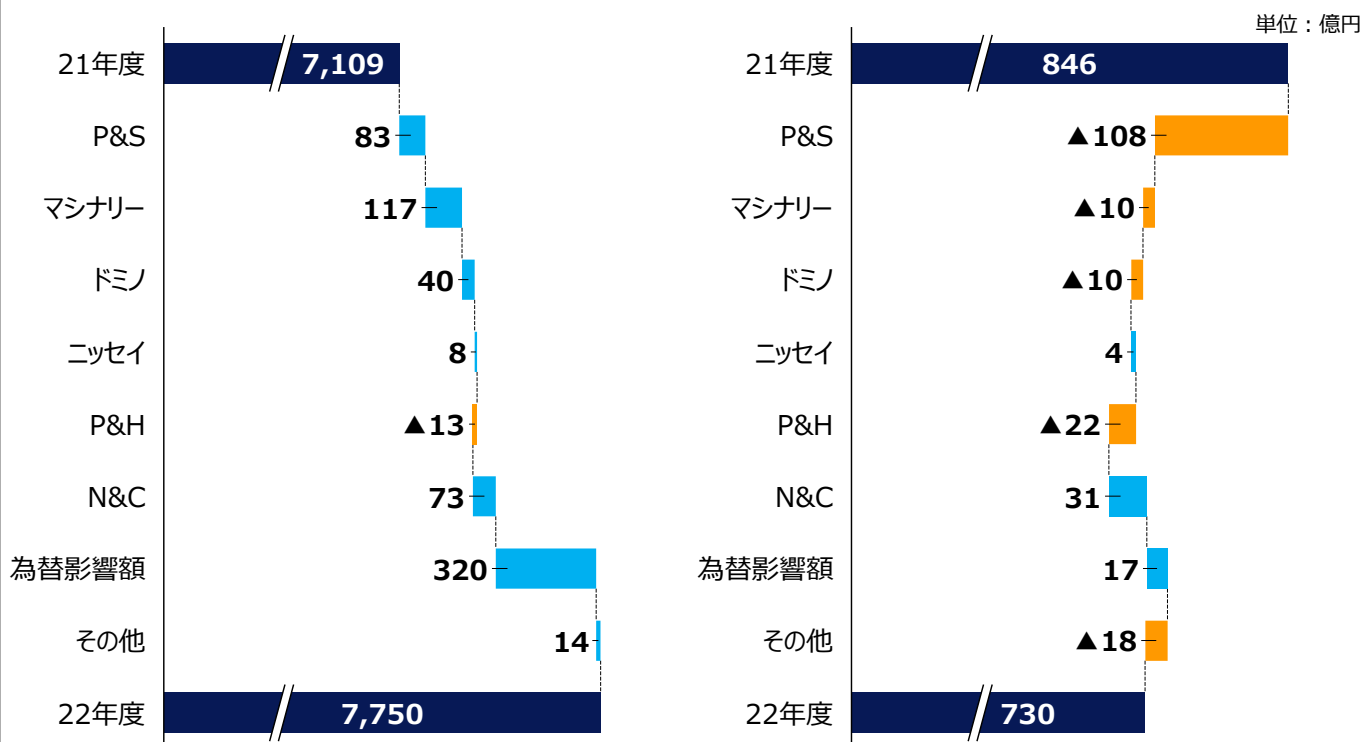
	売上収益			事業セグメント利益			営業利益		
	21年度実績	22年度予想	増減	21年度実績	22年度予想	増減	21年度実績	22年度予想	増減
P&S	4,242	4,553	311	598	485	▲113	594	485	▲109
マシナリー	905	1,070	165	126	135	9	126	136	10
ドミノ	847	900	53	52	43	▲9	43	42	▲1
ニッセイ	207	220	13	14	18	4	13	16	3
P&H	500	513	13	81	60	▲21	82	60	▲22
N&C	296	369	73	▲27	4	31	▲6	4	10
その他	111	125	14	4	▲15	▲19	3	▲13	▲16
合計	7,109	7,750	641	846	730	▲116	855	730	▲125

※セグメント間取引消去額は含めておりません。

事業セグメントごとの業績予想の一覧です。

売上収益の増減

事業セグメント利益の増減



※増減額は為替影響を除いた実質ベース

[ご参考]

2022年度の売上収益・事業セグメント利益の増減要因（前年度比）です。

・P&S

増収を見込むも、各種リスクを織り込み、減益。

・マシナリー

産業機器の需要の堅調さ、工業用ミシンの設備投資需要の回復を見込み、増収。
利益については、部材・物流コストの悪化や成長のための先行投資などを織り込み減益。

・ドミノ

売上は堅調に推移し増収を見込むも、販管費などの増加により、減益。

・ニッセイ

減速機・歯車とも堅調な推移を見込み、増収増益。

・P&H

巣ごもり特需の反動減により、減収減益。

・N&C

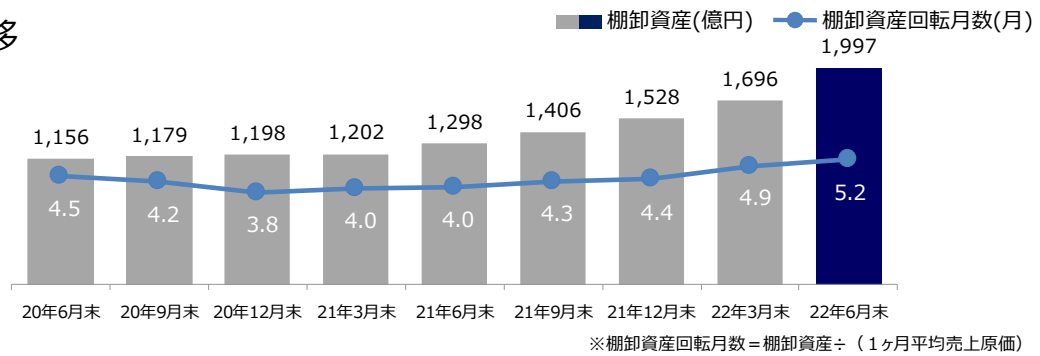
客足の回復を見込み、増収増益。

これらにより、全社では、売上収益は増収、事業セグメント利益は減益を見込んでいます。

	22年 3月末	22年 6月末	増減
流動資産	4,767	5,035	268
現預金	1,679	1,464	▲215
棚卸資産	1,696	1,997	301
非流動資産	3,344	3,481	137
負債合計	2,499	2,561	61
有利子負債	408	451	42
株主資本	5,611	5,955	343
総資産	8,111	8,516	405

	22年 3月末	22年 6月末	増減
ネット・キャッシュ	1,271	1,013	▲258
株主資本比率	69.2%	69.9%	0.7%
ROE	11.7%	-	-

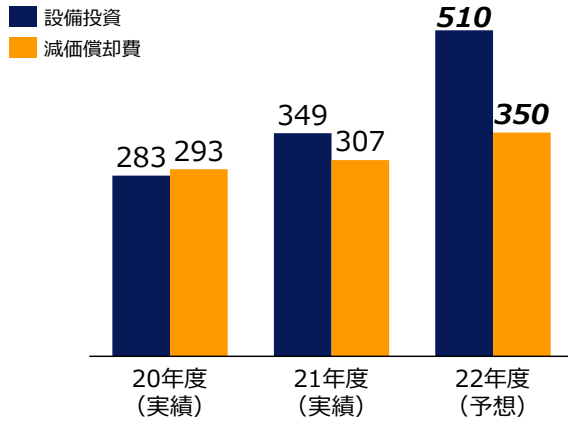
棚卸資産推移



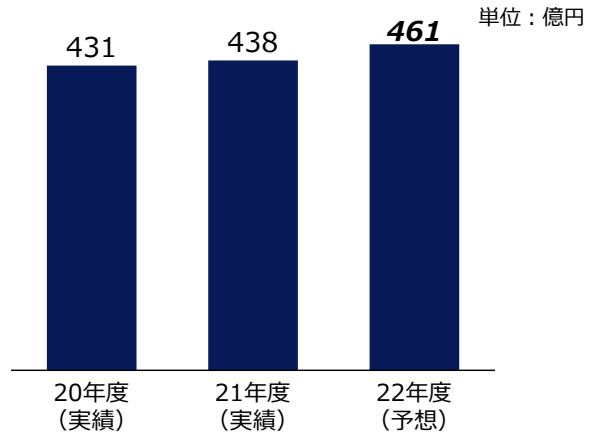
ネットキャッシュは、1,013 億円となりました。

棚卸資産の増加は、主にP&S事業によるものです。
サプライチェーンの混乱により、積送在庫が増加しています。

設備投資・減価償却費



研究開発費



設備投資内訳

	20年度	21年度	22年度
産業用領域	52	68	113
民生用領域他	231	281	397
計	283	349	510

研究開発費内訳

	20年度	21年度	22年度
産業用領域	91	103	129
民生用領域他	340	335	332
計	431	438	461

*産業用領域は、マシンリー事業、ドミノ事業、ニッセイ事業の内訳を合算したものです。

2022年度の設備投資、減価償却費、研究開発費についても、前回公表時からの変更はありません。設備投資、研究開発費ともに、中期戦略「CS B2024」で掲げた、未来に向けた先行投資として産業用領域を中心に計画通り実施していきます。

なお、今回より、設備投資、研究開発費の内訳について、事業別の開示ではなく、中期戦略における産業用領域、民生用領域とに分けて開示しております。産業用領域には、マシンリー事業、ドミノ事業、ニッセイ事業が含まれております。

セグメント業績概要

プリンティング&ソリューションズ事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother
at your side

単位：億円

	21Q1	22Q1	増減率	為替影響 除く増減率	FY21	FY22 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	991	1,218	23.0%	11.0%	4,242	4,553	7.3%	2.0%
通信・プリンティング機器	847	1,059	25.0%	13.0%	3,669	3,930	7.1%	1.8%
ラベリング	144	159	10.8%	-0.7%	573	624	8.7%	3.2%
事業セグメント利益	164	179	9.0%	-	598	485	-18.8%	-
営業利益	163	169	3.6%	-	594	485	-18.4%	-

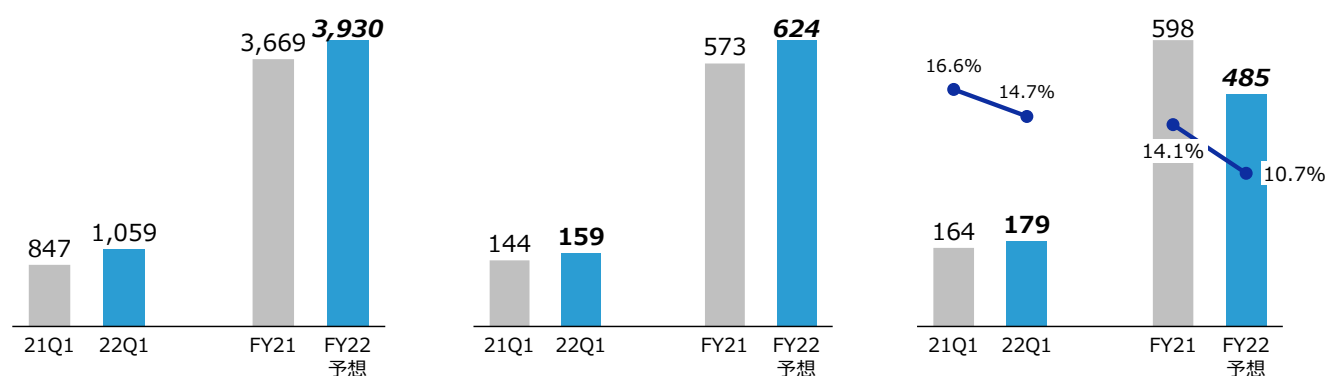
<売上収益>

通信・プリンティング機器

ラベリング

<事業セグメント利益>

● 利益率



© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

15

P&S事業の第1四半期の売上収益は **1,218** 億円。
現地通貨ベースでの伸び率は、プラス 11.0%の増収となりました。

・通信・プリンティング機器

売上収益は **1,059** 億円。現地通貨ベースでの伸び率は、プラス13.0%の増収となりました。

インクジェット複合機、レーザー複合機・プリンターともに供給制約が緩和されたこととともない、製品本体の販売が好調に推移しました。

消耗品については、値上げ前の駆け込み需要もあり、堅調に推移しました。

これらに、為替のプラス影響も加わり、増収となりました。

・ラベリング

売上収益は **159** 億円。現地通貨ベースでの伸び率は、前年同期並みとなりました。

為替のプラス影響に加え、ラベルライター・ラベルプリンター、モバイルプリンターを中心とするソリューション分野とも、堅調に推移しました。

事業セグメント利益は、**179** 億円。

部材・物流コストの高騰、および販管費の増加があったものの、

価格対応の効果に加え、消耗品全般の堅調な推移により、前年同期比 プラス 9.0%の増益となりました。

	20Q1	20Q2	20Q3	20Q4	21Q1	21Q2	21Q3	21Q4	22Q1	22Q2	22Q3	22Q4	20通期	21通期
LBP														
売上伸び率（円ベース/前年比）														
本体	6%	19%	18%	18%	-10%	-4%	-9%	-8%	41%	-	-	-	15%	-8%
消耗品	-18%	1%	0%	-1%	21%	15%	14%	16%	18%	-	-	-	-5%	16%
売上伸び率（現地通貨ベース/前年比）														
本体	11%	22%	21%	18%	-16%	-9%	-15%	-13%	28%	-	-	-	18%	-13%
消耗品	-15%	2%	2%	-3%	12%	9%	6%	9%	7%	-	-	-	-4%	9%
IJP														
売上伸び率（円ベース/前年比）														
本体	-37%	-49%	-12%	-3%	90%	95%	17%	15%	18%	-	-	-	-25%	45%
消耗品	-23%	-1%	9%	-6%	11%	-6%	-3%	2%	19%	-	-	-	-5%	0%
売上伸び率（現地通貨ベース/前年比）														
本体	-33%	-48%	-9%	-3%	79%	87%	11%	10%	8%	-	-	-	-23%	38%
消耗品	-20%	-1%	10%	-8%	5%	-10%	-7%	-2%	11%	-	-	-	-5%	-4%
消耗品比率	55%	57%	55%	56%	56%	57%	58%	59%	53%	-	-	-	55%	57%
販売台数伸び率（前年比）														
LBP	12%	10%	6%	0%	-28%	-16%	-20%	-16%	14%	-	-	-	7%	-20%
IJP	-39%	-57%	-24%	-25%	65%	101%	1%	7%	8%	-	-	-	-36%	34%

© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

16

第1四半期における主要製品の売上伸び率・構成比についてです。

・売上伸び率（現地通貨ベース）

レーザー（LBP）の売上伸び率は、本体はプラス28%、消耗品はプラス7%となりました。製品本体は、供給制約が緩和されたことともなう販売数量増に加え、価格対応の効果もあり、前年同期を大きく上回りました。消耗品は、米国での価格対応効果に加え、主に欧州における値上げ前の駆け込み需要もあり、堅調に推移しました。

インクジェット（IJP）の売上伸び率は、本体はプラス8%、消耗品はプラス11%となりました。製品本体は、在宅勤務・在宅学習などの定着により需要は堅調に推移したことに加え、価格対応の効果もあり、前年同期を上回りました。消耗品は、米国での価格対応効果に加え、主に欧州、国内における値上げ前の駆け込み需要もあり、堅調に推移しました。

・販売台数伸び率：

レーザー（LBP）は、ベトナム工場のロックダウン影響による供給制約の影響を受けた前年同期と比較して、回復基調にあります。

インクジェット（IJP）は、在宅勤務・在宅学習による需要が堅調に推移し、販売台数は前年同期を上回りました。

単位：億円

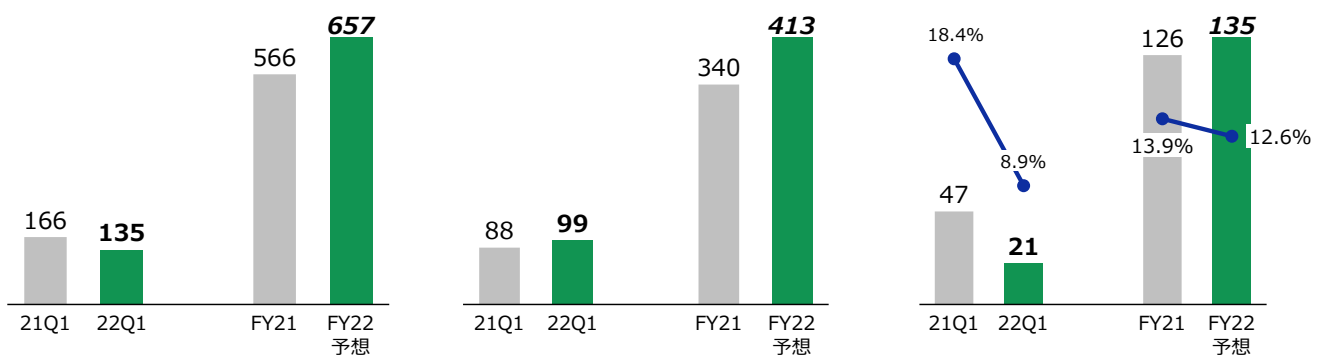
	21Q1	22Q1	増減率	為替影響 除く増減率	FY21	FY22 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	254	234	-7.6%	-14.2%	905	1,070	18.1%	12.9%
産業機器	166	135	-18.3%	-21.5%	566	657	16.1%	12.1%
工業用マシン	88	99	12.5%	-0.3%	340	413	21.5%	14.2%
事業セグメント利益	47	21	-55.4%	-	126	135	7.3%	-
営業利益	46	24	-47.2%	-	126	136	8.1%	-

<売上収益>
産業機器

工業用マシン

<事業セグメント利益>

● 利益率



© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

17

マシナリー事業の第1四半期の売上収益は **234** 億円。
現地通貨ベースでの伸び率は、マイナス14.2%の減収となりました。

・産業機器

売上収益は、**135** 億円。現地通貨ベースでの伸び率は、マイナス 21.5%の大幅な減収となりました。
受注は堅調に推移したものの、部材の供給不足や上海ロックダウンなどによる生産制約の影響を受け、IT向けのスポット受注もあり好調であった前年同期からは、大幅な減収となりました。

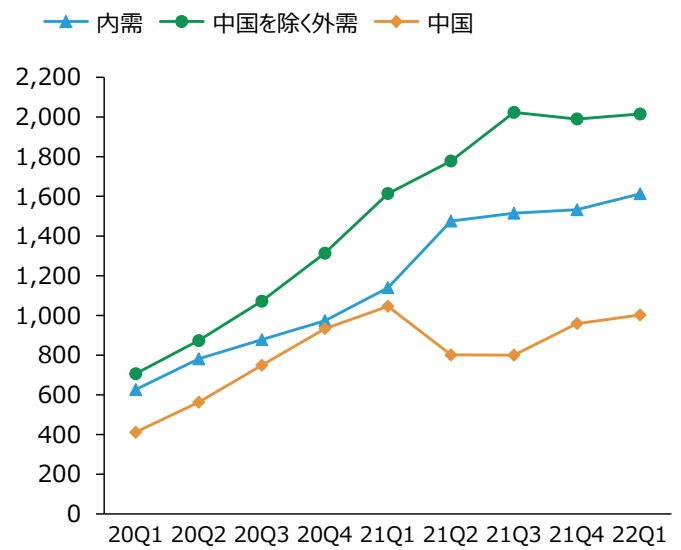
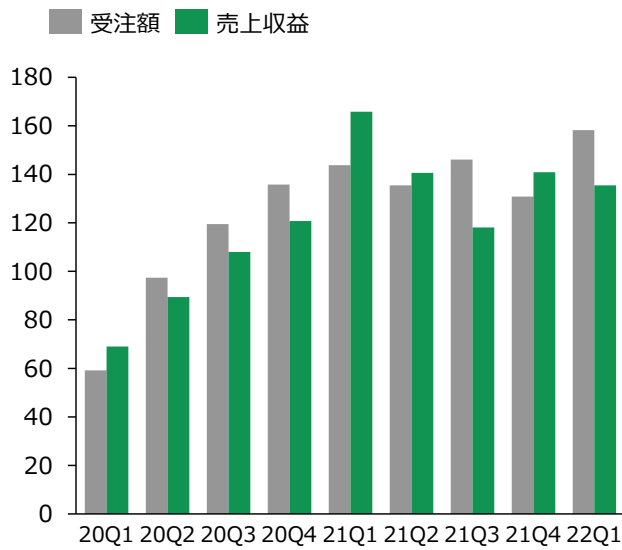
・工業用マシン

売上収益は、**99** 億円、現地通貨ベースでの伸び率は、前年同期並みとなりました。
工業用マシンについては、アジア・中国向けでのアパレル設備投資需要の回復により堅調に推移しました。
ガーメントプリンターについては、前年同期並みの水準となりました。

事業セグメント利益は、**21** 億円。
減収および販管費の増加、部材コストの高騰の影響を受け、前年同期比 マイナス 55.4%の大幅な減益となりました。

受注額・売上収益の推移

（参考）日工会受注統計



※国内・海外の製品本体の受注額合計
海外受注額は各四半期の為替レートにて円換算

※出所：（一社）日本工作機械工業会 工作機械主要統計より

四半期ごとの売上収益と受注額です。
受注額は、国内受注と海外受注を合わせた製品本体受注の合計額です。

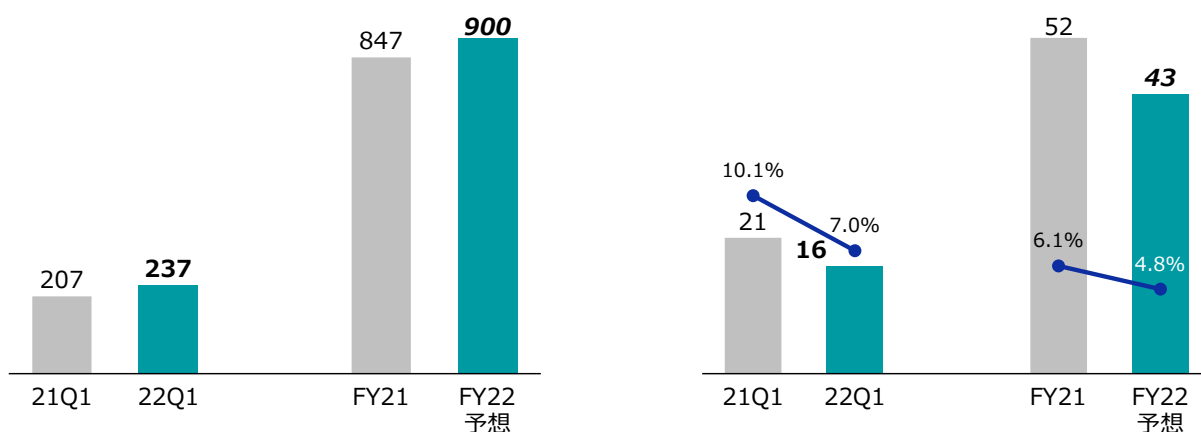
22年度第1四半期は、内需・外需ともに受注は高水準で推移しています。

単位：億円

	21Q1	22Q1	増減率	為替影響 除く増減率	FY21	FY22 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	207	237	14.5%	4.6%	847	900	6.2%	4.7%
事業セグメント利益	21	16	-21.0%	-	52	43	-16.7%	-
営業利益	21	20	-5.2%	-	43	42	-2.5%	-

<売上収益>

<事業セグメント利益> ● 利益率



© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

19

ドミノ事業の第1四半期の売上収益は **237** 億円。
現地通貨ベースでの伸び率は、プラス 4.6%の増収となりました。

製品本体は、C&Mが堅調に推移しました。
消耗品についてはC&M・DPともに引き続き堅調に推移しています。

事業セグメント利益は、**16** 億円。
営業活動の再開にともない販管費が増加したことなどにより、前年同期比 マイナス 21.0%の減益となりました。

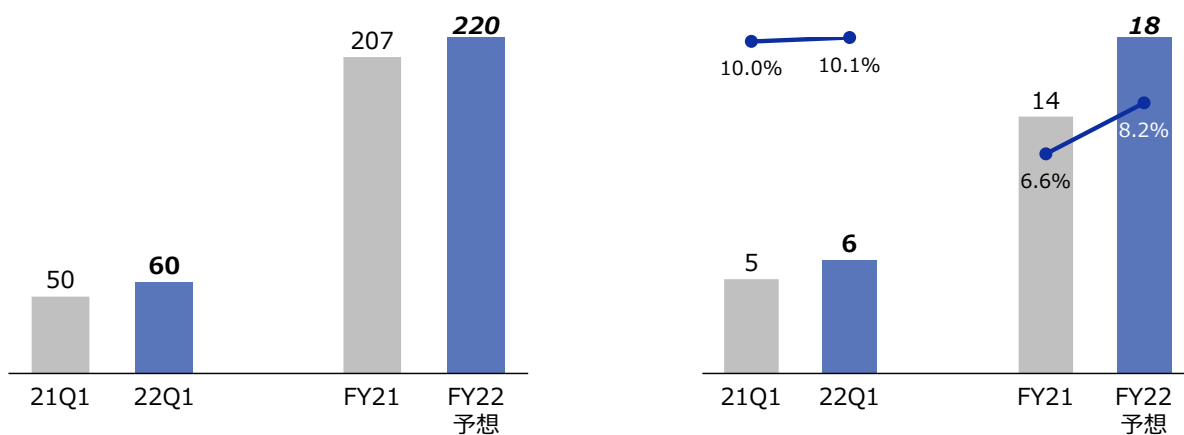
単位：億円

	21Q1	22Q1	増減率	為替影響 除く増減率	FY21	FY22 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	50	60	18.8%	14.4%	207	220	6.1%	3.8%
事業セグメント利益	5	6	20.2%	-	14	18	30.8%	-
営業利益	5	7	27.4%	-	13	16	18.6%	-

<売上収益>

<事業セグメント利益>

●—利益率



© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

20

ニッセイ事業の第1四半期の売上収益は **60** 億円。
現地通貨ベースでの伸び率は、プラス 14.4%の増収となりました。

工場における自動化ニーズの高まりにより、減速機・歯車ともに堅調に推移しました。

事業セグメント利益は、**6** 億円。
増収の効果により、前年同期比 プラス 20.2%の増益となりました。

パーソナル&ホーム事業
売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother
at your side

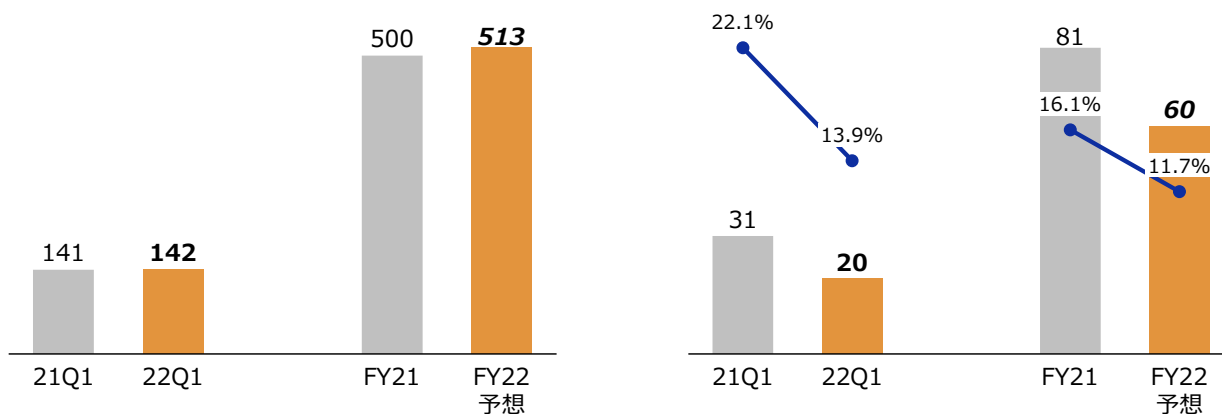
単位：億円

	21Q1	22Q1	増減率	為替影響 除く増減率	FY21	FY22 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	141	142	0.7%	-9.9%	500	513	2.6%	-2.6%
事業セグメント利益	31	20	-36.4%	-	81	60	-25.7%	-
営業利益	31	20	-35.1%	-	82	60	-26.9%	-

<売上収益>

<事業セグメント利益>

● 利益率



© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

21

P&H事業の第1四半期の売上収益は **142** 億円、
現地通貨ベースの伸び率では、マイナス 9.9%となりました。

各地域で巣ごもり需要は一巡したものの、為替のプラス影響が加わり、
事業全体としては前年同期並みの水準となりました。

事業セグメント利益は、**20** 億円。
製品ミックスの変化に加え、部材・物流コスト高騰などの影響もあり、
前年同期比マイナス 36.4%の大幅な減益となりました。

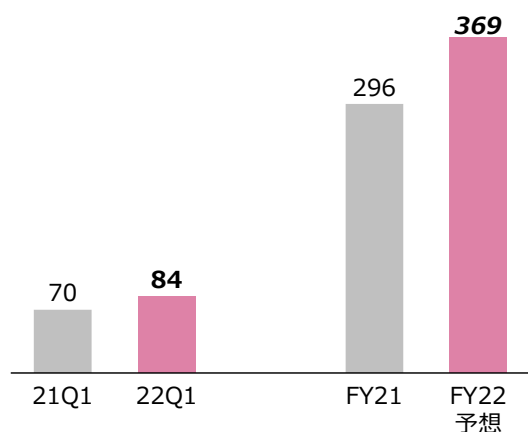
ネットワーク&コンテンツ事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother
at your side

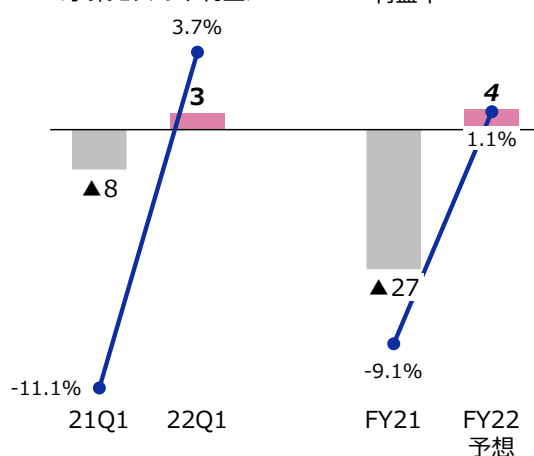
単位：億円

	21Q1	22Q1	増減率	FY21	FY22 予想	対前年 増減率
売上収益	70	84	20.9%	296	369	24.8%
事業セグメント利益	▲8	3	-	▲27	4	-
営業利益	▲3	7	-	▲6	4	-

<売上収益>



<事業セグメント利益>



© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

22

N&C事業の第1四半期の売上収益は **84** 億円。前年同期比 プラス 20.9%の増収となりました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動規制の緩和により、客足が回復しました。

事業セグメント利益は、前年同期の 8億円の赤字に対して、**3** 億円の黒字となりました。増収に加え、費用削減効果が寄与しています。

営業利益は、時短協力金や雇用調整助成金などの給付金の効果もありました。

ESGトピックス

最後に、ESGに関するトピックスをご紹介します。

ブラザーインダストリーズ（スロバキア）がカーボンニュートラル拠点到認定
ブラザーグループの生産拠点としては、ブラザーインダストリーズ（U.K.）に続く2例目の認定



ブラザーインダストリーズ（スロバキア）外観
事業内容：トナーカートリッジの回収、リサイクル等

■ CO₂排出削減に向けた主な取り組み

- **地熱交換システム**を利用した空調の活用をはじめとするオフィス・工場における省エネ活動
- **太陽光パネル設置**による創エネ活動
- 発電時にCO₂を排出しない**CO₂フリー電力**の購入

同社のスコープ1、2*がカーボンニュートラル認定基準を満たす

*スコープ1…事業者自らによる温室効果ガスの直接排出
スコープ2…他者から提供された電機、熱・蒸気の使用に伴う間接排出
スコープ3…スコープ1、スコープ2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他者の排出)

© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

24

トナーカートリッジの回収・リサイクル業務を担うブラザーインダストリーズ（スロバキア）が、カーボンニュートラル拠点として認定されました。
ブラザーグループの生産拠点としては、ブラザーインダストリーズ（U.K.）に続く2例目の認定となります。

ブラザーインダストリーズ（スロバキア）では、地熱交換システムの空調への活用や、太陽光パネルの設置、CO₂フリー電力の購入などのCO₂排出削減に向けた取り組みを進めており、同社のスコープ1、2がカーボンニュートラルの認定基準を満たしました。

様々なESGインデックスの2022年の構成銘柄に選定

「FTSE4Good Index Series」
「FTSE Blossom Japan Index」 3年連続選定



FTSE4Good



FTSE Blossom
Japan

「FTSE Blossom Japan Sector
Relative Index」 選定



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

「MSCI 日本株女性活躍指数(WIN)」
4年連続選定

2022 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

「SOMPOサステナビリティ・インデックス」
11年連続選定

2022



Sompo Sustainability Index

続きまして、ESGインデックスについてです。

ブラザー工業は、「FTSE4Good Index Series」および「FTSE Blossom Japan Index」に、
2020年より3年連続で構成銘柄に選定されています。
加えて、2022年に新設された「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」にも選定されました。

このほかに、MSCIの「日本女性活躍指数」には4年連続、
「SOMPOサステナビリティ・インデックス」には11年連続で選定されています。

ブラザーグループは、今後もESGを重視した経営を推進していきます。

brother
at your side

ビジネス領域		事業		分野（主な製品・サービス群）					
産業用領域	マシンリー・FA 領域	ニッセイ		 減速機 歯車	 工作機械	 工業用ミシン			
		マシンリー	産業機器						
	産業用印刷 領域		工業用 ミシン	工業用 ミシン	 ガーメントプリンター	 コーディング・ マーキング機器	 デジタル印刷機		
ドミノ									
民生用領域	プリンティング 領域	P&S (プリン ティング& ソリューションズ)	ラベリング	業務用 ラベリング	 業務用ラベル プリンター	 モバイルプリンター	 ラベルライター	 プリンター	 複合機
			汎用 ラベリング	汎用 ラベリング					
	ホーム・ カルチャー 領域	通信・プリンティング		P&H (パーソナル&ホーム)		 家庭用ミシン	 カuttingマシン	 通信カラオケ機器	
N&C (ネットワーク&コンテンツ)									